

令和4年7月15日

地方独立行政法人山梨県立病院機構
理事長 小俣 政男

令和3年度の決算と今後の取り組み

令和3年度の決算が整いましたので、決算の状況及び今後の取り組みについてご報告いたします。

A) 決算の状況

令和3年度決算

コロナ発生以来、現在（R4.6.30時点）まで累計699名の患者を受け入れて参りましたが、全職員一致団結し、種々の対策（後述記載）により、外来・病棟一日の休止もなく、医療を遂行して参りました。

令和3年度は、第3期中期計画期間の2年目ではありますが、計画と比較して、経常利益は14億円増の23億4,000万円、純利益は13億円増の22億1,000万円となりました。

その結果、経常利益、純利益ともに法人化後12年間で最高益となりました。

B) 病院の現状と展望

① 病院機能の充実・強化

中央病院では、平成31年4月に山梨県内唯一の高度救命救急センターの指定を受け、広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等、より高度で専門的な救急医療を提供できる体制を整備しました。

また、正確な診断と迅速な治療による救命率の向上を図るとともに、患者の負担を軽減するため、3R（Walk-in Operating Room（日帰り手術室）、HEOR（Hybrid Emergency Operating Room）及びHOR（Hybrid Operating Room））の整備に着手しました。

3R整備に当たり、設置スペースを確保するため、中央病院本館東側の増築工事（357.94㎡増）を行い、本年7月中の完成を予定して

おります。

また、令和3年度は、導入から16年以上経過したCT、MRIの更新手続きを行うとともに、CTを1台増設することとしました。これら機器は、本年7月1日から保険診療を開始しております。今後とも、計画的に病院機能の充実・強化に努めて参ります。

② 先進医療への取り組み

中央病院では平成28年3月に低侵襲手術支援ロボット da Vinci Xiを導入し、手術件数は前年度比1.5%増の335件となりました。また、対象手術を年々拡大し、令和3年度から大腸がんを追加したところです。da Vinci Xiで手術することにより、従来の手術と比較して患者さんの身体への負担が少なく、入院期間も短縮されております。

今後も独立行政法人制度の特性を活かし、高度で専門的な医療を提供して参ります。

③ 県立北病院における精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者への医療の充実

北病院では、平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、常時対応型病院として、救急患者を受け入れ、治療を行うとともに、平成31年4月に訪問看護ステーションを開設し、退院後、地域で生活する重症通院患者さんに対して継続的に支援を行っております。

今後も、地域の精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者、依存症患者等への医療の充実を図っていきます。

④ 地域に根差した医療従事者の育成

令和4年度も22名の初期臨床研修医を採用し、初期臨床研修医42名、専攻医44名 計86名の若手医師が在籍しています。これは、当院の全医師238名の36%となります。

これら若手医師の教育は、将来にわたって山梨県の医療の質的及び量的な基盤になると考え、当機構に在籍する高度な知識と技術を有する医師の指導のもと日々の研鑽を積んでおります。

また、本年度から、中央病院において看護師の特定行為研修を開始するため準備を進め、令和4年2月末に厚生労働省から指定研修機関の申

請認可を受けました。令和4年度は中央病院看護師7名が受講しております。

今後も、山梨県の地域医療を支えるため、多くの医療従事者を育成できる教育環境の整備を図って参ります。

⑤ より親切、信頼される病院を目指して

外来窓口の直営化や採血採尿自動受付機の導入による待ち時間の短縮に努めた結果、会計平均待ち時間は、前年度に比べて11.6分減の11.2分と大きく改善されました。

また、マイナンバーカードによるオンライン資格確認システムの運用開始、電子版かかりつけ連携手帳への対応、重度心身障害者医療費窓口無料化の実証実験など、山梨県と連携して患者サービスの向上に努めました。

⑥ 退院後も見据えた患者支援

患者さんの早期退院及びQOL改善を図るため、リハビリテーションスタッフを増員し（R2：17名 R3：22名 R4：27名）、土曜日及び祝日におけるリハビリテーションの通年実施や心大血管疾患リハビリテーションを開始するとともに、フレイル予防・改善のための実態調査を行いました。

また、退院後も患者が安心して在宅で療養できるよう地域の訪問看護ステーション等と連携した退院後訪問を開始いたしました。今後も、県民の健康の確保と増進に寄与することを目指して、職員一丸となって日々努めて参ります。

⑦ 基幹災害拠点病院としての使命を果たすために

山梨県唯一の基幹災害拠点病院として、災害時の初動活動を強化するため、令和4年4月から災害対策センターを設置しました。

また、災害時における重症患者の適切な医療を提供するため、洪水対策（止水板及びコンクリート壁設置工事）を行いました。

C) 新型コロナウイルス感染症への取組

新型コロナウイルス感染症については、患者さんの健康・生命・生活を守り、一人の職員も大きな健康被害を被ることなく、当院の医療の使命を堅持しながらコロナ撲滅に邁進することを理念として、医師・看護師・コメディカル・事務が一丸となって取り組みました。

詳細については、別紙資料をご参照ください。

県立中央病院及び県立北病院は、県の基幹病院として、先進医療を取り入れながら、職員一同“早くきれいに治す”を合言葉に、患者さんが一日も早く元気な姿でご家族の元にお帰りになれるよう取り組んで参る所存です。

今後ともご支援のほどお願い申し上げます。